

吉野梅まつり

令和8年

2月15日(日)~3月1日(日)

大分市杉原

吉野梅園・梅ノ木天満社境内

大分市に春の訪れを告げる「吉野梅まつり」を開催します。

吉野梅園には、龍が地に臥した姿に似ていることから名前が付けられた臥龍梅をはじめ、豊後梅、青軸、白加賀、寒紅梅など、約450本の梅の木があります。



絵：那賀美代（大南いろはカルタより）

吉野臥龍梅の由来



建久三年（1192年 源頼朝が鎌倉に幕府を開いた頃）堀川御所の騒動の時、禁裡守護の武士、藤原信近という人が難を避けてこの吉野の地に居住してきました。

その信近に近里という一人の子どもがいましたが、その近里という人は大変孝心が深く、且つ信仰心も厚く、特に朝夕、天満宮を遙拝していました。

ある日、近里は山に薪を採りに行きましたが、過って古木の枝で右足を折り、歩行は勿論、日常の起居にも大変不自由をする身となりました。

ところがある時、近里が異相の翁に逢い、その教えにしたがい、筑前（福岡県）の太宰府天満宮に詣で、17日間参籠し病難の平癒を祈願しました。満願の夜、衣冠の正しい貴人が現れ、梅の一枝を賜った夢を見ました。びっくりして夢が覚めましたが、見ると枕元に馥郁と香る梅花の一枝がありました。

近里は、「これは、きっと天神様が下さったのだ」と押しただいて紙に包み郷土に帰り、且つ一生懸命培養しましたところ、やがてこの梅に葉ができ、幹が生じずんずん繁茂し、その成長に伴い近里の病も次第に平癒し、再び以前にも勝る健康な身体を取り戻しました。

その後、梅の木は益々伸び、四方に広がりましたが、近里が包んだ時、左に捻じってあった為、この幹が常に左に捻じれ、丁度龍の臥した様な格好になりましたので、いつの間にか誰云うとなく「臥龍梅」と云う様になりました。

大南地区文化財同好会機関誌「落穂」第1号

「臥龍梅」（油布 勉氏の投稿より）※一部、表記を変えています。

2月15日の催事

会場：神楽殿

- 二目川神楽 (10:30~15:00)

2月15日のイベントが天候不良により変更となりました。

2月22日の催事

会場：神楽殿

- 小池原神楽(10:00~15:00)

会場：梅園広場

- 相撲甚句 (11:00~11:25)
- カラオケ (13:00~14:00)
(原川二郎と歌日和)

3月1日の催事

会場：神楽殿

- 片島里神楽(10:00~15:00)

会場：梅園広場

- 吉野臥龍梅太鼓
1回目 10:30~11:30
2回目 12:30~13:30

※天候等により内容の変更や中止になることがあります。



問い合わせ先：吉野梅まつり実行委員会 097-597-1000(大分市役所大南支所)